

授業科目名 (英訳)		特殊研究Ⅱ (含フィールドワーク) Special Research Project II				担当者所属 職名・氏名		総合生存学館 関係教員			
配当学年	4 回生	単位数	4	開講年度 開 講 期	H27 通年	曜時限		授業形態	演習	使用言語	
〔授業の概要・目的〕											
<p>特殊研究Ⅱでは、特別研究Ⅰ、Ⅱならびに特殊研究Ⅰで身につけた研究基礎力や学識などをベースに自ら選んだ専攻分野における研究能力を増進させるとともに、1年間のフィールドワーク(武者修行)を通じて人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な課題の所在を理解させて、「総合生存学」にかかわる自らの課題設定へと導き、さらには、その解決への実践を通じてグローバルリーダーとしての素養を修得させる。フィールドワークでは、「総合生存学」に関する知見をさらに広め、学生自らの課題設定とその解決の道筋について十分に検討させた上で、課題解決や意思決定の実装に取り組みさせる。さらに、研究状況や研究成果について報告をうけ、博士学位論文の準備に向けて教育指導教員をはじめとして複数の教員が適切な助言を与える。</p>											
〔到達目標〕											
<p>フィールドワークにおける現地での活動を通して、グローバルな視野をもって創造的に課題解決にあたるために必要な能力を獲得する。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>フィールドワークの研究成果を社会へ展開するための国際実践教育(フィールドワーク)と捉えている。この目的に鑑み、具体的な想定業務としては調査から政策立案、プロジェクト実施、交渉、成果発表等、多岐に亘るアプローチでの業務を想定している。また、受け入れ機関の業務を実践すると同時に、学生自らのテーマを更に深化させるための実践的研究活動も企画することを期待している。フィールドワーク中の学生に対しては、メンター教員／教育指導教員が研究指導教員と連携し、日常的にe-ポートフォリオ、メール等で連絡を取るとともに必要に応じて巡回指導を実施する。メンター教員／教育指導教員は、四半期毎に実施する学生とフィールドワーク先のスーパーバイザーとの面談結果に応じ、適宜スーパーバイザーへ連絡し問題解決に向けて調整する。</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>学生に四半期毎に報告書を提出させ、フィールドワーク先のスーパーバイザーと面談をし、活動の見直しを実施する。3度にわたって提出させた報告書(英文/A4用紙6枚程度)ならびに帰国後の発表会での成果報告(英文/A4用紙20枚程度)によってグローバルな視野をどれくらい獲得できたかを総合的に評価する。</p>											
〔教科書〕											
〔参考書等〕											
〔授業外学習(予習・復習)等〕											
PBRのための予備調査											
〔その他(オフィスアワー等)〕											